



さの かずひこ
佐野 和彦 議員
(富岳会)

聴覚障がい者の未来

問 我が市には、人工内耳を使う聴覚障がいを持たれた方は何人いるのか。

部長 市では、人工内耳を使用している人数は把握できていないが、日常生活用具給付制度を利用して、人工内耳の電池・充電器の給付を受けた方は9人いる。

問 人工内耳の体外機本体交換の助成ができないか市長に伺う。

市長 更新については医療保険が適用されず、利用者の経済的負担が大きいので、助成の必要性は大きいと考える。平成31年度から他市に劣らない手厚い助成をしていきたいと思う。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）と土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の今後

問 今回、県の見直しで土砂災害警戒区域と土砂

災害特別警戒区域に変化が生じたか伺う。

部長 15年に383カ所あった土砂災害危険箇所は、27年8月には404カ所に見直された。30年3月現在、土砂災害警戒区域が367カ所あり、この中に土砂災害特別警戒区域が316カ所含まれ、31年3月末には28カ所が新たに指定される見込みである。

問 住むことのできない場所になった場合、何か救済策はあるのか。

部長 土砂災害特別警戒区域に指定された場合、崖地近接危険住宅移転事業の対象となるため、住宅の除去や撤去に係る費用に対して、80万2千円の補助や、移転先の土地を購入する費用の利子のみに対する補助制度がある。

問 土地が崩落などした場合、固定資産税の見直しは行われるのか。

部長 固定資産税は現況課税になる。本人からの申請があれば、現場確認のうえ、減免の取り扱いの規定があるので、減免措置される可能性もある。



さの としお
佐野 寿夫 議員
(公明会)

富士宮市内の交通人身事故発生状況とその対策について

部長 平成30年と29年の対比で、増加率では県内でワーストワン。また、加害者の約7割が富士宮市民である。市スローガン「世界遺産富士山に恥じない交通マナー都市 富士宮」を掲げ、市民に交通安全啓発を行っていく。



▲世界遺産富士山に恥じない交通マナー都市 富士宮

1級市道外神馬見塚線の交差点について

部長 路面標示による注意喚起、安全対策につい

て検討する。今後、信号機の設置について再度公安委員会へ要望していきたいと考えている。

上野バイパスの進捗状況と国道469号精進川地先の拡張整備の方向性について

部長 事業用地の取得は、8割を超える契約が完了している。30年度は、一部区間のつけかえ水路の工事に着手している。31年度は引き続き、用地買収及び建物補償交渉を優先的に進めたい。

問 国道469号精進川地先の拡張整備は。

副市長 県に、国道469号御殿場バイパスの整備が終わったら、すぐに用地買収等に入れるよう、調査の前倒しをお願いしている。

夢ステージの評価と今後代替となる企画を推進することについて

部長 市民が主体的、自発的に公益活動を推進し、ともに支え合う自立したまちづくりとしても大きな意味があった。障がいのある人を初め、市民が主体的に行うイベントや活動には、市として障がい者理解の促進、市民協働の観点からも、今後も支援をしていきたい。